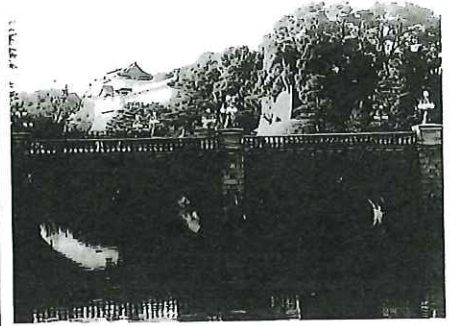


# ちよ多

第3号 (1999年1月)



一階営業店頭



本館から二重橋を望む

## 緑翠の会旗翻る

### 賑々しく稔り多い記念大会

会長 飯田龍鷹

平成十年十月十一日、秋酣、日本晴の佳日に、緑翠の会旗の下、千代田岳精会発足の記念大会が開催されました。会内外の人々の御協賛により、賑々しく稔り多い会となりました。心から皆様へ感謝いたします。

惟えば支部発足から二年、二十一世紀到達の会昇格目標を三年縮めて実現したわけです。幸は一人でも多くの人にと呼びかけた結果、高い志と深く生きる喜びを持った同志が、ここに百三十名集まった次第です。

中国の格言に「友を得る者は覇者」「師を得る者は王者」という言葉があります。私達は正に百余名の吟友と、日本一の横山岳精宗家を師と仰ぎ得る幸者であります。さて当日発会の会場に掲げたスローガンは次の三つです。

一、発会とは喜びと感謝である。

大きいことはいいことだ。

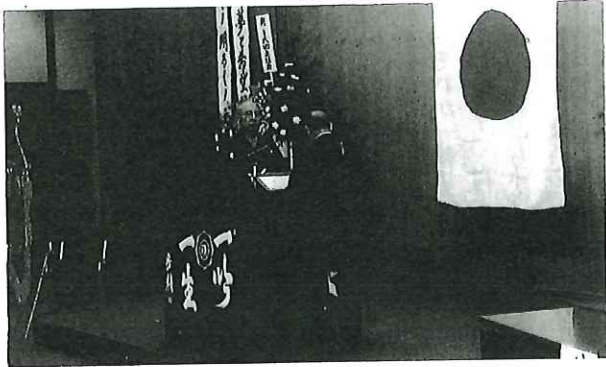
我々子供の頃からの観念です。

本部宗家の宣伝もあって、千代田の存在は今や全国区、それだけに喜びも一入です。又、多士

経済の人材により、各種行事の消化、企画、実行なども全てOKです。そしてお互いの心のひびきあう大合吟も壮観です。

二、日本の夢と希望は詩吟から大きく明るく元氣よく、

私達には、生まれ育った美しい山河の故郷があり、その自然風土に培われた日本の心があります。構成吟の詩の数々は、美しく、しなやかです。



### みんなで歌い吟じよう!! 「日本の心と美しいふるさとの詩」

ナレーションおよび司会 伴 平山・鈴木重風・菅原琴山  
進行指導 耳塚昇泉・城戸 温

#### 清水教場

- 46 一月一日 ... 新年祝の詩
- 47 早春賦 ... 春
- 48 嗚呼玉杯に花うけて... 自訟

木村岳風  
島崎藤村  
杉浦重剛

#### ハザマ教場

- 49 故郷 ... <短歌> ふるさとの
- 50 大楠公 ... 大楠公
- 51 坊がつる讃歌 ... 桂林荘雜詠諸生に示す(その一)

石川啄木  
徳川景山  
広瀬淡窓

#### 神田教場

- 52 花 ... 舟中子規を聞く
- 53 臘月夜 ... <俳句> 菜の花や
- 54 荒城の月 ... 滝山城懐古

城野静軒  
蕪 村  
角光嘯堂

#### 東陽町教場

- 55 青葉の笛 ... 青葉の笛
- 56 夏は来ぬ ... <俳句> 目に青葉
- 57 浜千鳥 ... つりがね草

松口月城  
素を亡くした  
ある少年の作

#### 丸の内第二教場

- 58 鯉のぼり ... 端午鯉幟
- 59 月の砂漠 ... 月の砂漠
- 60 砂山 ... <俳句> 荒海や

松口月城  
岩坪秀咆  
芭 蕉

#### 丸の内第一・練水教場

- 61 冬のよる ... 冬夜書を読む
- 62 蛍の光 ... <俳句> 降る雪や
- 63 揚げば尊し ... 桂林荘雜詠諸生に示す(その四)

菅 茶 山  
草 田 野  
廣 瀬 淡 窓

- 64 大合吟 日本讃歌 丘 灯至夫 先導 井手樹風

これら美しい詩の心で、失いかけた日本の夢と希望を、詩吟を通してひろめて行くことではありませんか。(左表)

日本は、ここ二十世紀末に来て、マスコミの過剰宣伝などに、より政治、経済、文化を通じて逼塞感が漂っています。これを打破して明るく健康に生きる核ともなりたいものです。その一環として、わが千代田は単独で武道館合吟コンクールに出てみたいと念願しています。

元氣(平成十年度宗家指標)に羽ばたく千代田の真骨頂を天

投稿大歓迎  
吟の仲間、皆さんお元氣のようですね。いつもここに、若くみえるとか。良いリズムで健康を楽しんでいる秘密を、ぜひお知らせ願えません。行数は短くても結構です。よろしくお願いします。

教場めぐり 清水教場の巻(第二回)

研修には高いハードルを設定

清澄庭園で温習会開催

東京の気温が三十四・四度を超えた七月三日(金)清水教場の温習会が開かれた。所は江東区清澄庭園の一角、数奇屋造りの「涼亭」。

当日の参加者は三十名。清水教場十六名に加え他教場の有志十四名。教場開設約二年間の成果を問う温習会で丁度七十回目のレッスンに当たるといふ。

吟詠は十二時に開始、十三時四〇分に終了。独吟は力吟の連続で迫力充分、中でも全員による合吟白居易の「酒に對す」は圧巻であった。六月入会したばかりの寺沼達夫さんの杜甫の絶句独吟には大きな拍手が湧く一場面も……。

来賓の模範吟は飯田会長の角光嘯堂「滝山城懐古」で締括られたが、挨拶では「吟の勉強は家族の支援あってこそ」と強調され、「この文化の香り溢れる部屋での吟詠」に感謝の言葉を述べられた。

幹事役の村上恒泉さん談「一杯の吟を聴いていただいた上、皆さんの暖かい拍手が嬉しかった。今後とも拍手に甘えず頑張りたい。」

大人の漢詩愛好集団

一八人のものふ達

清水教場の開設は平成八年十

月。現在、全て男子の武士集団十八名。月四回の研修(月曜)は第二、第四が飯田会長、第一、第三は磯田副会長が指導を担当されている。勉強の目安は高いハードルを設定、有名でよく知られた詩に真向から取り組み続けている。

和やかな懇親会の席上、飯田、磯田両先生、それに村上幹事がこもこも語った談話は次のとおり。

飯田——大人の漢詩愛好の集まり、それが一緒に束になって勉強している——村上——とにかく皆さんともども仲良く楽しく——

磯田——漢詩の解る男の集団という印象、漢詩の中身や心について互いに語り合えるハイグレードな仲間だと思ふ。

◎詩吟上達アラカルト③ 詩吟の呼吸

- ①正しい呼吸法(吟息法)で詩を吟じよう。それは腹式呼吸で、健康に抜群。深く吸って、長く吐く(最長十五秒位)(炭火をおこす)↓大吹竹を吹くように。
- ②息は鼻から吸う。
- ③吸った息は、一寸止めてから声にする。
- ④肩を上下させず、下腹部の筋肉の力で呼吸する。
- ⑤息は吐くより、吹くように。
- ⑥出る息は、全部、声にする。

⑥声は、「カラ」になるまで使わぬよう。少し残す。

吟道 青春の感動 勇氣湧く

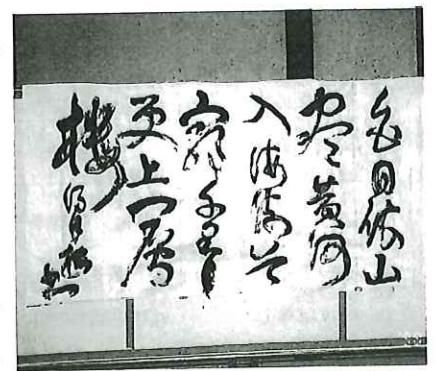
清水教場 湯山徳次郎

詩吟漬けの発会記念大会の一つの目玉に「書道吟」があるんですが、やって見ませんか——磯田副会長からお誘いがありました。乗気になって非才を顧みず、書道家でもある飯田会長に臆面もなく申し出たところ、即座に「どうぞ」とお墨付きを頂いたのです。

王之渙作の「鶴鶴樓に登る」を選び、早速、下書きを持参し、飯田先生のご指導を仰ぎながら当日に備えました。

書道吟の場合、吟者が「山に依って尽き」と吟ずる所を書家は「衣山盡」と書き、また「千里の目を窮めんと欲し」の所は「欲窮千里目」と書きますので、吟と書はその点順序が一致しません。そこで原語を暗誦し、不安と緊張のうちに随分と練習を繰り返しました。黒板は垂直なので筆を当てると墨汁がしたり落ちます。紙質にあった墨汁を筆にふくませ、それに濃液をつけて書くのは、むずかしいものでした。

さて、無事に詩文を書き終え、署名も終わって会場から大きな拍手をいただいた時は、思わず感動と喜びで胸の熱くなるのを覚えました。これも一重に両師を始め吟



士の西川宗信さん、吟友の皆さんよりの手厚いご支援、ご声援の賜と深く感謝致します。

最後に余談ですが、マッカーサー元帥の座右の銘とされた、サミュエル・ウルマンの「青春とは」の詩の一節をご紹介します。おさな兒に似たる未知への関心は、人の世を嬉しきことで充たすもの。ふと思ひ浮かべて齢甲斐もなく青春の感動と勇氣が湧いて来たようなことでした。

編集後記

今回の編集の目玉は、千代田岳精会の記念大会と清水教場めぐりで、皆さんもご高承のとおり、平成十一年は、一つのチャレンジとして、武道館の全国合吟コンクールに出場しよう……という大きな夢というか、目標が設定されました。

また先般、わが千代田岳精会の業務運営につき、担当をお願いする方々が、年齢的に若返りました。今年も皆さん力を合せて、楽しく、頑張ってくださいませ。